

7月4日の運転操作に係わる時系列

時刻	運転操作及び警報履歴
10時42分	焼却運転開始(順調に運転)
11時24分	煙道内温度が上昇していたため、熱分解ガスの発生を抑えるため還流ガス流量調整弁を「全閉」にした。
11時26分51秒	熱分解室圧力が上昇したため負圧を維持するよう熱分解室圧力調節計を「自動」から「手動」に切替え「全開」とし排気風量を増加させた。
11時26分54秒	煙道内温度 高(950℃)発生 インターロックにより熱分解ガス発生を抑えるため一次空気流調弁が強制的に「全閉」となった。
11時26分57秒	熱分解室圧力が上昇したため負圧を維持するようB排風機の回転数を「増」操作し排気風量を増加させた。
11時27分	煙道内温度を下げるため、冷却の目的で二次空気流量調節計を「自動」から「手動」に切替え約50%から60%開にし二次空気流量を増加させた。
11時27分02秒	熱分解室圧力 高(-20mmH ₂ O)発生
11時27分04秒	熱分解室圧力 高高(0mmH ₂ O)発生 (その後約30mmH ₂ Oまで上昇)
11時27分12秒	煙道内温度 高高(1000℃)発生 インターロックにより煙道内の冷却のため二次空気流調弁が強制的に「全開」となった。(その後約1150℃まで煙道内温度が上昇)
11時27分22秒	B空気送風機停止
11時27分23秒	燃料供給ポンプ停止
11時27分23秒	還流ガス送風機停止
11時27分24秒	B排風機停止
11時27分26秒	補助排風機起動 (その後、熱分解室圧力は約-30mmH ₂ Oまで低下)
11時29分06秒	煙道内酸素濃度 低(6vol%)発生 (その後煙道内酸素濃度は0vol%以下となった。)
11時30分15秒	煙道内温度 高高警報復帰
11時31分34秒	煙道内温度 高警報復帰
11時36分頃	煙道内温度が通常値(約850℃)に復帰確認 熱分解室負圧維持確認 熱分解室圧力高、高高警報復帰確認
11時41分40秒	B排風機起動 (熱分解室圧力は約-30mmH ₂ Oから更に低下)
11時47分16秒	補助排風機停止
11時50分51秒	還流ガス送風機起動
	(約1分後に爆発音のような大きな音を確認)
	・熱分解室圧力高警報発生
	・焼却炉排出ダクト内圧力高警報発生
11時51分	光電アナログ注意警報発報 光電アナログ:煙を感知する
11時52分	火災警報発報
11時54分09秒	還流ガス送風機停止
11時55分11秒	煙道内酸素濃度 低(6vol%)復帰

※時刻は、推定時刻は「頃」、焼却炉設備運転監視装置において記録しているものは「秒」まで表記している。